

問五 中学生のAさんは、「発表の際の検索利用のしかた」について考えるために、二つの文章を読んでい
る。次の【文章1】、【文章2】は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

【文章1】

私たちはパソコンやスマートフォンを使っていつでも必要な情報にアクセスできます。そんな便利なものがあるのだから、私のように時間をかけて苦勞して頭の中に知識を入れる必要はないし、これを仮説づくりに利用しない手はないと考える人もいるでしょう。事象を理解するときの知識も新しいアイデアをつくるときのベースになるタネも、必要なときに必要なものを外から持つてくれば良いという発想です。このほうが効率よく仮説をつくることができると考えている人は多いようです。

しかし実際にやってみればわかりますが、そのようなやり方では対象を深く理解できないし、良いアイデアをつくることはできません。仮につくることができたとしても、一応形になっているというだけで、実際に役立つ精度の高い仮説にはなっていないことが多いのです。

原因の一つは、インターネット上には良いタネと悪いタネが玉石混淆いんこうしていることです。また自分できちんと身につけた知識ではないので、自分のオリジナルではなく、情報の入手先のたんなる真似まねになってしまふことが多いという問題もあります。大学の論文をネット情報からのコピー&ペーストでつくってしまうことが一時問題になりましたが、これと同じで、見てくれは立派だけどそのじつ中身がない仮説しかつけれないことが多いのです。これが自分の中にタネがないことの欠点で、苦勞はあるものの自力で備えたタネでないと、事象の深い理解や新しいアイデアの創出など仮説づくりには使えないのです。

(畑村はたむら 洋太郎ようたろう「新失敗学 正解をつくる技術」から。)

【文章2】

これからはICT教育(注)が重要な位置を占めると言われるが、情報検索のスキルを高めるだけでは考える力を鍛えることはできない。実際、何でもネットで検索すればよいという感じで、自分の頭でじっくり考えることを省略する風潮が顕著になっている。

検索するのと考えるのと、いったい何が違うのかと尋ねられることがある。

たしかに、自分で考えるといっても、頭のなかに浮かぶ言葉をめぐってあれこれ考えるわけで、自分の記憶を検索している面があるのは否定できない。だが、読書も含めて自分自身の経験に根ざし、年月をかけて熟成した思いや考えをこねくり回すのは、自分自身から切り離されてネット上に浮遊する情報を検索し引き出すのとはまったく様相が異なる。

じっくり考え、思考を深めるには、良い聴き手を前に思いを語るのが効果的である。カウンセリングが効果をもつのも、じっくり耳を傾けてくれる聴き手を前に、思い浮かぶことを語っていくうちに気づきが得られ、これまでと違った構図のもとに自分の経験や思いを検討できるようになるからである。

ひとりで思考を深めるには、自分の思うことを文章にしてみるとよい。自分の内面に渦巻くモヤモヤした思いを文章にすることで、心のなかが整理されていく。言葉にするとすることは、言葉を用いてモヤモヤした頭のなかを整理することに等しい。(榎本えのもと 博明ひろあき「思考停止という病理やまい」から。)

(注) ICT教育＝情報通信技術を活用した教育のこと。

(ア) Aさんは【文章1】と【文章2】を読んで、内容を次のようにまとめた。【Aさんのメモ】中の

I	・	II
---	---	----

に入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

【Aさんのメモ】

【文章
1】

パソコンやスマートフォンで情報にアクセスし
仮説づくりに利用する。

↓対象を深く理解できない。

↓実際に役立つ精度の高い仮説にならない。

- ・ 良いタネと悪いタネが混じっている。
- ・ 情報元の真似になり、

I

 仮説

しかつぐれない。

苦勞して自力で備えたタネでないと、事象の深い理解や新しいアイデアの創出が困難。

関係がある。

【文章2】

今後のICT教育への懸念^{けねん}

「情報検索のスキルを高めるだけでは、考える力を鍛えることはできない。

検索することと考えることは違う。

自分の経験に根ざし、時間をかけて熟成した思いや考えをめぐらすこと。

II
なのは、

- ・ 良い聴き手を前に語ること。

・自分の思うことを文章にすること。

【Aさんのまとめ】

(イ) Aさんは【文章1】と【文章2】を読んで考えたことを次のようにまとめた。【Aさんのまとめ】
 中の………に適することばを、あとの①～④の条件を満たして書きなさい。

1	I	中身がないように感じさせる
2	I	知識が十分には整理されていない
3	I	見せかけばかりで中身がない
4	I	不正確な知識が混じった

- Ⅱ 情報を整理するために効果的
- Ⅱ 検索で有意義な情報を得るために必要
- Ⅱ 自分の思考を深めるのに有効
- Ⅱ 経験を豊かにするために不可欠

【文章1】を読んで、仮説をつくる際の心構えについて考えさせられた。インターネット上の情報へのアクセスは手軽だが、それに頼ってばかりでは独自のものは生み出せないのだ。

また、【文章2】を読んで、【文章1】の内容と関係があることに気づいた。独自の考えを生み出すためのタネを育てるには、自分の経験とじっくり考える時間が必要なのだと思った。

以上のことを踏まえて考えると、仮説を用いて発表するときには、.....ようにすべきだ。

日頃からこのことを意識して過ごし、授業での発表や作文などに生かしたいと思う。

① 書き出しの仮説を用いて発表するときには、という語句に続けて書き、文末のようにするべきだ。という語句につながる一文となるように書くこと。

② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以内となるように書くこと。

③【文章1】と【文章2】の内容に触れていること。

④ 「思考」「独自」という二つの語句を、どちらもそのまま用いること。

問五

仮説を用いて発表するときには、

35 ようにするべきだ。

- 25